


A  保護者とどのように共通理解を図り、関わっていきはよいでしょうか？

**実践例1** 面談や連絡帳を通して、保護者と情報共有し、本人・保護者の願いを汲みながら通級による指導を実施しましょう。



小5年

障害の種類・程度や状態等	知的発達に遅れはなく、自閉症の診断がある。 他者の意図や感情の理解が苦手であり、クラスメイトとのコミュニケーションにおいてしばしばトラブルを起こすことがある。
通級の活用状況	自校通級45分×週2回（個別45分×週2回、2学期途中から個別の1回を小集団45分×週1回）
保護者の願い	相手の心情を考えた発言や行動ができるようになってほしい。

1. 本実践例の概要

実態把握の際に保護者と面談して情報を収集し、また、通級による指導の様子、指導・支援の結果の確認や日常の様子などについても、連絡帳等を工夫するなどして情報共有に努めた。  
保護者から聞き取った本児の好きなキャラクターを通級による指導に取り入れることで意欲を高めるなど、常に指導方法や内容について保護者と共有し、保護者の意向を聞きながら取り組んだ。感情のコントロール方法や声掛けの方法について、通常の学級においても取り組むことによって、通常の学級で感情を高ぶらせる回数は減り、クラスメイトと遊ぶ姿も多くみられるようになった。また、家庭で、学校であった出来事を楽しく話をするようになり、学校の様子について、連絡帳だけでなく、本児の言葉からもわかるようになったと保護者が喜んでいる。  
※在籍学級担任や家庭との連携については第2章0ページ参照

2. 連携の実践

保護者とのやりとり	留意事項
本児の状況把握のための聞き取り、指導方法の検討	
<p><b>POINT!</b> 子供の姿は場面によって様々です。特に家庭と在籍学級での様子については非常に重要な情報なので、可能な限り直接聞くなどして丁寧に情報を集めましょう。また、本児がどのような場面であればがんばることができるのか、好きなことなどの情報も大切な手立てのヒントとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聞き取りをしたタイミング、方法（保護者面談の際の参加者・所要時間など具体的な様子、紙媒体でのやり取りがある場合はフォーマットの紹介）</li> <li>聞き取りをした内容</li> <li>指導方法について、保護者への説明</li> </ul> <p><b>POINT!</b> 目標や指導内容を設定する際には、保護者の通級利用に対する思いなどを聞き取るとともに、本人から通級を利用することでどのような姿になりたいか聞き取ることでも大切です。聞き取った内容を、教育としてどのように取り組むかを考えることは教師の重要な役割です。また、通級による指導を開始するに当たって、目標や手立て等について保護者と共有することも大切です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>忙しくて時間が取れない保護者への対応の方法</li> <li>聞き取りに際してのポイント、留意事項（必ずしも協力的でない保護者の方もいる。）</li> </ul>
通級による指導にどう生かしたか	

保護者とのやりとり	留意事項
通級による指導の様子、通常の学級や家庭における様子の共有	
<p><b>POINT!</b> 家庭と連携する際には、日常の様子を連絡帳等で、学期に一度程度、個別面談等で行うことが大切です。また、負担にならない程度に、家庭での様子も連絡帳に記入してもらおうとよいでしょう。これらの情報を在籍学級担任と共有することは大切ですが、どのような内容を共有するのかについては、保護者と相談しながら決めるとよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有の方法、機会（指導後、学期ごとなど。連絡帳などを活用していれば、フォーマットの紹介）、頻度</li> <li>情報提供及び聞き取りをした内容</li> <li>家庭での対応をお願いした事項（その決定方法）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各機会の情報共有、意向伺いの意図</li> <li>保護者に指導の様子を伝える際のポイント</li> <li>家庭における無理のない範囲での対応の見極め</li> </ul>
通級による指導にどう反映したか	
<p>具体的な指導例を取り上げて記載 （通常の学級においても支援を行った場合には、その点についても触れること）</p>	
保護者とのやりとり	留意事項
通常の学級への引継ぎ ※進級、進学時の引継ぎは別途記載	
<p><b>POINT!</b> 通級による指導を終了しても通常の学級における支援が必要な場合があります。通級による指導で効果的だった支援等を活用しますが、通常の学級で活用できるようアレンジすることが必要になる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有の方法、機会</li> <li>保護者の願いの把握</li> <li>今後の支援体制についての検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通級における指導の評価を保護者に伝える、また、保護者の願いを把握する際のポイント</li> <li>学校における今後の支援体制を検討する際の保護者との関わり</li> </ul>
通常の学級における指導のフォローなどその後の対応	
<p>具体的な支援を取り上げて記載</p>	

3. 引継ぎの際のポイント

・次年度や進学時の引継ぎの際、保護者とのやり取りで留意する事項などポイントを記載

保護者との関わり

保護者とどのように共通理解を図り、日々、関わっていけばよいのでしょうか？

Key word

よく話を聞いて、保護者の願いを汲みとる。保護者の思い、願いはさまざまです。分からないことがあると不安もあります。

1. 本実践例の概要



実態把握の際に保護者と面談して情報を収集し、また、通級による指導の様子、指導・支援の結果の確認や日常の様子などについても、連絡帳等を工夫するなどして情報共有に努めた。

指導方法や内容について常に保護者と共有し、保護者の意向を聞きながら取り組んだ。感情のコントロール方法や声掛けの方法について、通常の学級においても取り組むことによって、通常の学級で感情を高ぶらせる回数は減り、クラスメイトと遊ぶ姿も多くみられるようになった。

※保護者や在籍する通常の学級の担任との連携については第2章0ページ参照

2. 実践（保護者とのやりとり）

通級による指導の開始前

本児の状況把握のための聞き取り、指導方法の検討

保護者からの聞き取り

POINT! 可能な限り直接聞くなどして丁寧に情報を集めましょう。



- 子供の姿は場面によって様々です。特に家庭と在籍学級での様子については非常に重要な情報になります。
- 本児がどのような場面であればがんばることができるのか、手立てのヒントとして、好きなことなども聞き取りましょう。

指導方法の検討

POINT! 保護者や本人の願いを汲み取り、目標や指導内容を設定しましょう。



- 保護者の通級利用に対する思いなどを聞き取るとともに、本人からも通級を利用することでどのような姿になりたいかよく聞き取りましょう。
- 通級による指導を開始するに当たって、目標や手立て等について保護者と共有しましょう。

こんなときは・・・

- 忙しくて時間が取れない保護者には、・・・
- 通級による指導の活用に向きでない保護者に対しては、・・・

参考：「〇〇」



※聞き取りに際しての留意事項、聞き取り事項は、第2章0ページ参照。

通級による指導の開始後

通級による指導の様子、通常の学級や家庭における様子の共有

日常的なやりとり、節目のやりとり

POINT! 連絡帳の活用、学期に一度の個別面談など、お互いの負担になり過ぎない工夫を。



- 連絡帳等を活用し、日常的に学校、家庭の様子を共有しましょう。また、学期に一度程度、個別面談等で直接話す機会を設けましょう。
- 在籍する通常の学級の担任と情報を共有することは大切ですが、共有する内容については、保護者と相談しながら決めるとよいでしょう。
- 保護者に指導の様子を伝える際には・・・

POINT! 保護者の願いを聞きながら、指導内容に反映させていきましょう。

※連絡帳のフォーマット例は第2章0ページ参照。

通級による指導の終了時

指導の評価、指導の終了についての確認、今後の支援体制の検討

保護者に伝えるタイミング、今後の検討

POINT! 通級による指導の評価を伝える際には、・・・しましょう。

POINT! 通常の学級における支援体制も含めて共通理解を図りましょう。



- 通級による指導を終了しても通常の学級における支援が必要な場合があります。通級による指導で効果的だった支援等を活用しますが、必要に応じて、通常の学級で活用できるようにアレンジするようにしましょう。

こんなときは・・・

- 保護者が、通級による指導の継続を希望した時には、・・・

3. まとめ

障害による困難の状況から機械的に指導目標を設定したり、指導内容を決めるのではなく、何に不安を感じているのかも含めて、通級による指導を通して、どのようになりたいと考えているのか、本人はもちろん、保護者の願いを丁寧に汲みながら、指導にあたります。また、困難な状況は変化しますし、それに応じて願いも変化するものなので、継続的な保護者とのやりとりが大切になります。

詳細な実践例はコチラ

